

| | | | |
|--|---|-------|---|
| 第35回定期大会 日時：9月10日(日)13時半 場所：教育会館501号室 |  ホームページ http://chibarouren.org/ メール chibarouren@axel.ocn.ne.jp | 第381号 | 発行 千葉県労働組合連合会 |
| | | 2023年 | 〒260-0854 千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター3F |
| | | 8月21日 | 電話 043 (225) 5576 FAX 043 (221) 0138 発行人 本原康雄 定価20円 |

第 381 号 URL 版 2023 年 8 月 31 日
発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター
電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138
発行人 本原康雄 定価 20 円

【1面】

核兵器廃絶78年目の思い

8/7-8 原水爆禁止2023年世界大会開会

被爆 78 年目の夏を迎えた長崎市内で 8 月 7 日～8 日の 2 日間、原水爆禁止 2023 年世界大会が開会されました。この間の新型コロナの影響により、4 年ぶりのリアル開催となりました。

被爆者や国連、各国政府、市民社会などが共同し、核兵器の使用や威嚇を許さずに廃絶を求めることを大会の目的としています。世界はロシアのウクライナ侵略と核兵器使用の危険から守るため、各国の相互理解と尊重が国際条約順守のため、世界で協力し平和な世の中を作ろうと呼びかけました。



4 年ぶりの大々的な開催で連帯する世界大会の参加者

集会で各氏が発言

初日の 8 月 7 日、世界大会起草委員長の富田さんから「被爆から 78 年以上たった今でも、心身ともに苦しみがもたらされています。この悲劇を繰り返さないことこそが核被害を起こしたくない理由です」との発言がありました。

長崎市長の鈴木史朗氏から「核兵器のない世界の実現は被爆地の悲願であり、使命です。被爆者は核の脅威を世界中の誰にもさせてはならないと、自らの体験を語り伝え、核兵器廃絶を訴え続けてきました。厳しい国際情勢の中で、次世代がしっかりと平和のバトンをつなぎ、これまで以上に力を合わせて戦争や核兵器をなくす声を大きくすることが大切です。

長崎市は平和を願うすべての人々と手をつなぎ、核兵器廃絶を訴えます。大切ななかまとして平和を輪を大きく広げたい」と語りました。

日本原水爆被害者団体協議会代表委員の田中重光氏は「爆心地から 6 km 先の自宅の庭先で被爆し、家族にケガはありませんでした。未曾有の被害でかろうじて助かった人々も後遺障害に苦しむ人生となり

ました。アメリカは核の非人道性を隠匿し、日本政府も追随しました。核兵器は人類絶滅を目的としている、絶対悪の兵器です。被害者は国からの援護もなく、貧困と病気、差別と偏見を受けました。被爆者や核兵器廃絶を願う人々の運動により、2021年に兵器禁止条約が発行され、核廃絶の平和を願う人々に感動と勇気を与えました。

この間、岸田政権は防衛力を強化しています。対米追従の戦争加担ではなく、憲法に基づく、対話で相互信頼を築くことが大事です」と語りました。

次に国際会議・セッションでは海外からの発言がありました。ウクライナから昨年と同様にビデオ参加したユーリイさんは「この戦争をロシア人に経験してほしいとは思わない。戦争が何十年と続いた時に好戦的な愚かさを捨て、和平交渉に向かわない限り、何十年間も世界中が核の恐怖にされされます。争いに勝利はなく、対話こそが勝利です」との発言がありました。

大型台風接近のため予定が1日早まり、分科会は午前中に短縮され、午後からは閉会総会が開催されました。

韓国人の金（キム）さんからは「日本に強制徴用された韓国人がなぜ爆死し、原因不明の病魔で、死ぬことになったのか。原爆を投下したアメリカ政府に伝えてほしいです。歴代の韓国政府の被爆者への扱いも厚遇してほしいです。アメリカ政府に対し、原爆国際民主法廷でアメリカの責任を裁き、謝罪もしてほしいです。その時、核のない平和な世界が実現出来ます」との発言がありました。

『国際宣言』では

ロシアの侵略による核兵器の使用と威嚇は、紛争の平和的解決を定めた国連憲章の原則を踏みにじり、廃絶はすべての国の責務です。核大国が核軍縮に背を向ける中でも、核兵器禁止条約を力にした世界の流れは発展しています。仮想敵をもたない包摂的な枠組みこそ、世界を安全にします。軍事費の増大に反対し、大幅な削減を要求します。岸田政権が、アメリカに依存をし、抑止力を口実に大軍拡をすすめています。唯一の戦争被爆国として、また戦争放棄の憲法を持つ国として、反核平和運動の行動を取ることを要求する日本の行動に連帯します。我々は常に若い世代の参加の輪を広げ、前進する決意です。

折鶴と久留里の名水を献納

核兵器禁止に向け

た行動

映画上映に参加

千葉土建から 16 人のなかまが長崎で開催された 2023 原水爆禁止世界大会に参加しました。

台風 6 号の影響により大会規模の縮小や分科会の時間短縮など大幅な日程変更が実施されるなど前例のない事態となりましたが、7日の開会式には 3800 人（オンライン 1500 人含む）が全国各地から結集し、被爆者からの戦争反対へ向けた想いや各国代表からの核兵器禁止へ向けた切実な訴えがされました。

2 日目に実施した分科会ではすべての会場で開催時間の短縮がされましたが、参加したなかまからは「短時間でもとても勉強になった」「現地地しか学べない貴重な経験が出来た」といった報告が寄せられ、学ぶことの大切さを改めて感じる取組となりました。



被爆地で平和の尊さを実感する千葉土建のなかま

同日全建総連が開催した被爆した建設職人の「慰霊祭」には竹内団長と矢作事務局長が参列し、松戸支部のなかまが作った銅板製の「折り鶴」やかずさ支部提供の「久留里の名水」を献納しました。

翌日の閉会式には4300人（オンライン1500人含む）が参加し、平和行進で奮闘したなかまへの激励や各団体からの想いを共有しました。

台風の影響により予定変更になりましたが、困難な状況でも同じ志を持ったなかまと共に学ぶ時間は、現地で参加したからこそ得られた貴重な体験となりました。2日間の経験を1人でも多くのなかまに伝える取組を広げ、平和運動を進める活動をこれからも目指します。【寄稿記事・千葉土建本部・伊勢谷瀧書記】

波 涛

オーストラリアとニュージーランドで開催されたサッカー女子ワールドカップ（W杯）は、8月

15日現在、ベスト4が残っている。日本女子代表は、準々決勝で格上のスウェーデンに1/2で敗れはしたが、スピーディな攻めと予測や各選手の連動した守備で5試合楽しませてくれた。世界に通じるサッカーだと、感じた▼8月以降、沖縄・フィリピン・インドネシアで男子バスケ、フランスを舞台に男子ラグビーのW杯が開催される。テレビやネットなどで観戦することもあるだろう▼私たちは、もっと豊かにスポーツ文化を楽しむ権利を持っているはずだ。今の賃金・労働時間ではそういった権利が十分保障されているとはいえない。

【2面】



組織強化は待ったなし

千葉労連次期運動方針の特徴

千葉労連は9月10日に第35回定期大会を開催します。現在、常任幹事会では次期運動方針を議論しています。次年度方針の特徴について、矢澤事務局長に聞きました。以下、紹介します。

組織発展の鍵は次世代の担い手づくり

全労連・千葉労連が発足し34年が経過しました。結成当時、運動を牽引してきた役員が退職などで組織から去り、運動を維持することが困難な職場が全国的に増えています。それと連動し地域労連への結集も困難な状況です。この状況は、多くの組織で役員の世代交代が上手くいかないことが原因です。組織人員の減少や人手不足による現場の多忙化により、役員のなり手が減っていることもあります。新役員が決まらずOBが組織を支えるなどして、運動を継続する組織も多くなっています。

たたかう労働組合として次世代の運動の担い手を作ることを常に考えなければなりません。

そもそも論を議論

千葉労連はこの1年、たたかう労働組合のバージョンアップを掲げて運動に取り組んできました。①ストライキなど交渉力を高めてたたかえる組織の構築②産別と地域の統一行動への結集③要求で仲間を増やし、労働組合を強く大きくしながらたたかう方針を掲げてきました。

各組織がたたかう労働組合として発展するには、組織強化が重要です。なぜ労働組合は春闘に取り組み、要求をストライキで訴えるのか、地域労連に結集する意義は何か、なぜ統一行動日に運動の結集が

大事なのかという、そもそも論を職場単位で深く議論し、学習し組合員全体の確信に変えることが必要です。

バージョンアップの発展

たたかう労働組合のバージョンアップをもとに、多くの組織が次世代役員の要請、意識的な運動の担い手づくりをしています。来年度はたたかう労働組合のバージョンアップをさらに進め、方針を実践できる組織作りを進めていきます。

千葉県では来年の 10 月に『全国学習交流集会』が開催される予定です。集会の成功とあわせ、担い手づくりの場としても取り組みます。ぜひ、集会成功のためにご協力お願い致します。

ちば労働学校10月から開催 2023年受講生募集

労働組合の労働学校はみんなで学び交流をすることが目的です。昨年は多くの参加があり大好評でした。

労働は何のため、資本主義経済の仕組みと労働者・国民の権利、労働組合の歴史と展望について考え、よい労働環境のため、一緒に学び豊かな人生を送りましょう。2023年ちば労働学校が、10月から12月まで第2日曜日の午後に開催されます。学習と交流を通じて職場、地域、年代の枠を超えたなかまとの出会い、交流出来るよい機会です。

真実を見抜く力をつける

第1回目は侵略問題です。ウクライナ侵攻から1年半経ても、平和への道筋が見えません。「攻められたらどうする?」という疑問に対する答えを平和運動の専門家である講師が分かりやすく講義します。

第2回目はいすみ市の高秀牧場での校外学習です。厳しい酪農の状況について学習します。高秀牧場は「循環型酪農」に取り組み、地域の活性化と食の安全に貢献しています。昼食は、バーベキュー交流会です。品評会で賞を得たチーズなどのお買い物も出来ます。

第3回目は情報やメディアが溢れかえっている現代社会についてです。正しい情報発信ばかりではなく、真実ではない情報も流れています。観察し、仮説をたて、検証するという科学的なものの見方、考え方を学び、権力者の思惑に騙されない、真実を見抜く力をつける講座です。

労働相談一ヶ月

～職場のトイレ・男女別がなくなる～

Q 女子ばかり、正社員8人パート14人が働く福祉の職場です。今度、男性を採用することになり、女子トイレをひとつ男女の区別のないトイレにするとします。基準が変わり「独立個室型の便所」にすればいいというのは本当ですか。

A 21年12月に事務所衛生基準規則及び労働安全衛生規則の改正があり、「作業面の照度」、「便所の設備」、「救急用具の内容」について基準が変わりました。

相談の便所については、新たに「独立個室型の便所」が法令で位置付けられました。

最近、観光地の駅などのトイレに従来の男女別トイレの外に、男女の区別のないトイレが設置されていることに気づきましたでしょうか。トランスジェンダーの人への配慮を兼ねたトイレになります。また、少人数でマンションの一室を借り、事務所として起業する人も増えています。従来の基準では対応できない状況が起きていることから、基準の変更が行われ、「独立個室型」を条件に男女別のトイレの設置義務を緩和したものです。少人数とは、常時10人以内の作業場という条件です。

相談者の職場は、正社員8人パート14人の22人が常時働いているので、今回の改正の対象作

業場ではありません。したがって、新たに男性を採用するにあたっては、従来通り男女別のトイレを設置する必要があります。この基準の変更を理由とするのではなく、どのような形で男女別のトイレを設置するのがよいか、職場でよく話し合いをすることが必要と思います。男女のトイレの位置によっては、防音機能が必要になる場合もあります。職場合意をつくる話し合いが不可欠です。【中林】